

## 提 言

## 新生児マススクリーニングってなに？

黒田 泰弘 (徳島大学副学長)

新生児の血液に含まれるアミノ酸やホルモンなどの検査によって病気を早く見つけ、知的障害を予防する新生児マススクリーニング検査事業が全国規模で開始されてから30年を迎えようとしています。この間に何千人もの子どもが知的障害を免れて、新生児マススクリーニング検査の恩恵を受けています。しかし、一般の人の中には、何千人に一人、何万人に一人の病気の子どもを見つけて採算が合うのかとの疑問もあります。新生児マススクリーニング検査の採算性を分析するとフェニルケトン尿症とクレチン症の新生児マススクリーニング検査は、早期発見によってそれぞれ年間5億円と31億円の純便益が認められ、採算が合うことが明らかになりました。このように新生児マススクリーニング検査事業は小児保健行政の輝かしい成果の一つであります。

新生児マススクリーニング検査事業は、一般にはまだ十分に理解されていませんが、2001年度にわが国に定着したものと見なされて一般財源化され、国から離れて地方自治体の単独事業になりました。最近、検査センターの質を十分に考えずに検査委託費が安いというだけで委託先を決める自治体があるとの噂も聞かれます。義務教育費の国から地方への移譲が議論されています。新生児マススクリーニング検査事業も取り返しのつかないことが起こらないようにその重要性を自治体の行政に認識してもらわなければなりません。



仲良し — なみちゃんとリオちゃん —

写真提供 黒田泰弘